

2. 子どもたちの描く将来の生活像

がんばってもなれそうにない職業は

子どもたちの現在の「幸せ感」とその推移のサイクルを見てきたところで、子どもたちが描いている具体的な将来の生活像に接近してみよう。

将来像と言えはまず頭に浮かぶのは、何になりたいか、つまり「なりたい職業」であろう。それを表9に掲げた。男子と女子では、かなりの差があって、専門管理職の希望者は、男子15%、女子5%と、アスピレーション（大願・野望）の違いが目立つ。

しかしある意味ではこうした「なりたい職業」は、小学生段階では、多くの子どもにとって単に思いつきの答がなされているのかもしれない。自分の将来について、明確なイメージや希望を持ち始めるのは、多くの場合もっとずっと後のことであろう。大学を受験する直前になって、希望の大学ははっきりしてきても、職業的達成との関連は一部の者を除いて、まだまだぼんやりしたものなのかもしれない。

表9・子どものなりたい職業

(%)

	専 門 管 理 専門・管理	セ ミ 専 門	ホ ウ カ ラ イ ト ホワイトカラー	教 員	販 売	ス ポ ー ツ タ レ ン ト	そ の 他
男 子	12.6 2.8 15.4	12.9	17.6 6.1 23.7		16.7	13.3 6.0 19.3	12.0
女 子	4.6 0.4 5.0	16.6	9.2 47.1 56.3		9.1	2.0 6.0 8.0	5.0

それよりむしろ、表10に示した「こんな職業には、どんなにがんばってもなれそうもない」とする職業への「断念率」の方が、意味ある数字と言えるかもしれない。

表10は、14の職業を挙げ「この中で、あなたがどんなにがんばってもなれそうにもないと思うものがあつたら○をつけてください」とたずねた結果である。(○はいくつでも可)表が示すように、①政治家(断念率71%)、②裁判官(70%)、③大学教授(62%)、④大会社社長(58%)などが上位。下位すなわちまだ断念されていない職業は、⑭サラリーマン(14%)、⑬公務員(18%)、⑫新聞記者(29%)、⑪小学校教師(32%)などが並んでいる。

しかもここでおもしろいのは、上欄の10の職業の断念率が、成績と大きな相関を持っていることである。これらは成績がよくないとなれないと子どもたちに判断されている職業であることを示す。たとえば1位の政治家についてみると、成績のとてもよい群では断念率が52%だが、成績のレベルが下がるにつれて、68%、74%と断念率は上昇し、成績下位群では79%と最大の割合になっている。これはどの職業についても不等号の向きによって、よく示されている。

しかし下欄に示した「テレビタレント、マンガ家、デザイナー、サラリーマン」は、断念率そのものの全体の中ではやや低いものが多く、また成績レベルと必ずしも相関がないのがおもしろい。たとえばマンガ家に例をとると、一番断念率の高いのは、成績が「とて